

第 44 回ズーム三水会報告

日時：2025年2月19日（水）16時～18時

テーマ：宇宙人宮沢賢治

講師； 野口幹夫

司会；今尾和美氏

参加者（敬称略） 野口幹夫 波治裕美 石塚秀雄 今尾和美 中村範子 小関 栄

丸山茂樹 野崎俊一

報告内容と質疑応答：

宮沢賢治の銀河鉄道の夜は今や世界的な人気を集めている。この作品は賢治の特異な才能である魂の対外離脱により、この3次元世界につながる5次元の宇宙へと飛び出すことによって体験する世界を描いたものだとする見方を解説した。

質疑討議 出席者はすべて宮沢賢治の愛読者であり、それぞれがこの特殊な切り口について意見を述べ合った。その論議については録画でご参照ください。

録画：動画リンク

<https://youtu.be/ZiTfmSoQWdI>

資料： 次ページ PDF

宇宙人 宮沢賢治



2025-2-19

三水会

野口幹夫

目次

・

第1章 宇宙人宮沢賢治は世界から愛されている。

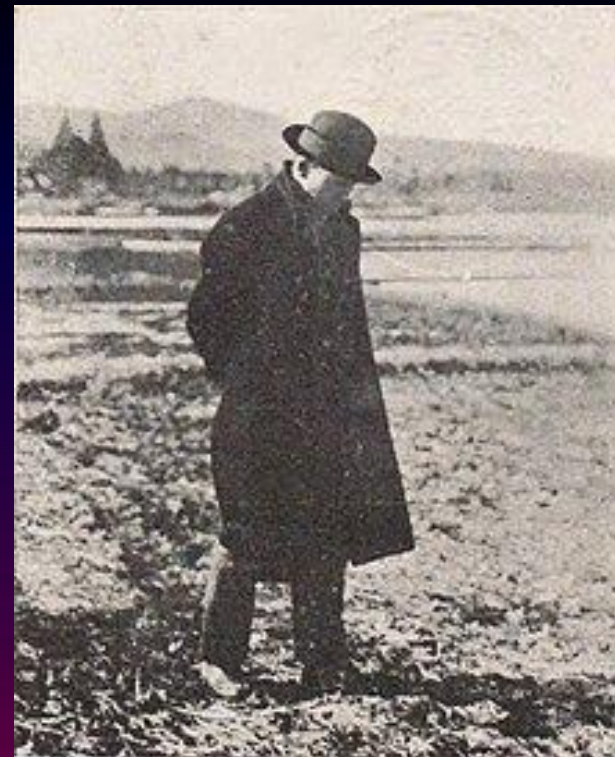
- ・ 1節 「宮沢賢治と宇宙飛行士」
- ・ 2節 世界中で愛されている宮沢賢治

第2章 科学とその応用も、 そして社会の将来を見通す先見性

第3章 卓越した宗教的信念

第4章 それらを支えた賢治の第6感とスーパー能力

第5章 この3次元空間を飛び出した宇宙人賢治



第1章 宇宙人宮沢賢治は世界から愛されている。

第1節「宮沢賢治と宇宙飛行士」

銀河鉄道の旅で宇宙旅行を果たした宮沢賢治を仲間のよう
に大切にしておられる日本の宇宙飛行士がおられる。毛
利衛さんだ。彼は著書「私の宮沢賢治」を書かれた。野口
聡一宇宙飛行士は引退後の活動拠点を賢治の言葉から引用
して「未来圏」と名付けた。

毛利衛宇宙飛行士は「わたしの宮沢賢治 地球生命の未来圏」
の中でこう書いておられる。

最初に宇宙飛行をしたとき、私は宮沢賢治の「生徒諸君に寄せる」(「詩ノート」付録)という文章の一部を書き写した小さなノートを船内に持ち込みました。

「新しい時代のコペルニクスよ/余りに重苦しい重力の法則から/この銀河系統を解き放て……。」「〔断章六〕」。明治の生まれ、農学者で教師の彼が、あたかも無重力状態を経験していたかのように、宇宙の哲学を胸高鳴る私に与えてくれたのです。

第2節 世界中で愛されている宮沢賢治

- 賢治は文学作家としては無名のまま亡くなったが、死後時を経るにつれ世界中で愛読者が増えた。
- 特に「銀河鉄道の夜」は、人気が高く、世界中で多くの言語に翻訳されている。以下のように12の言語に翻訳されている：

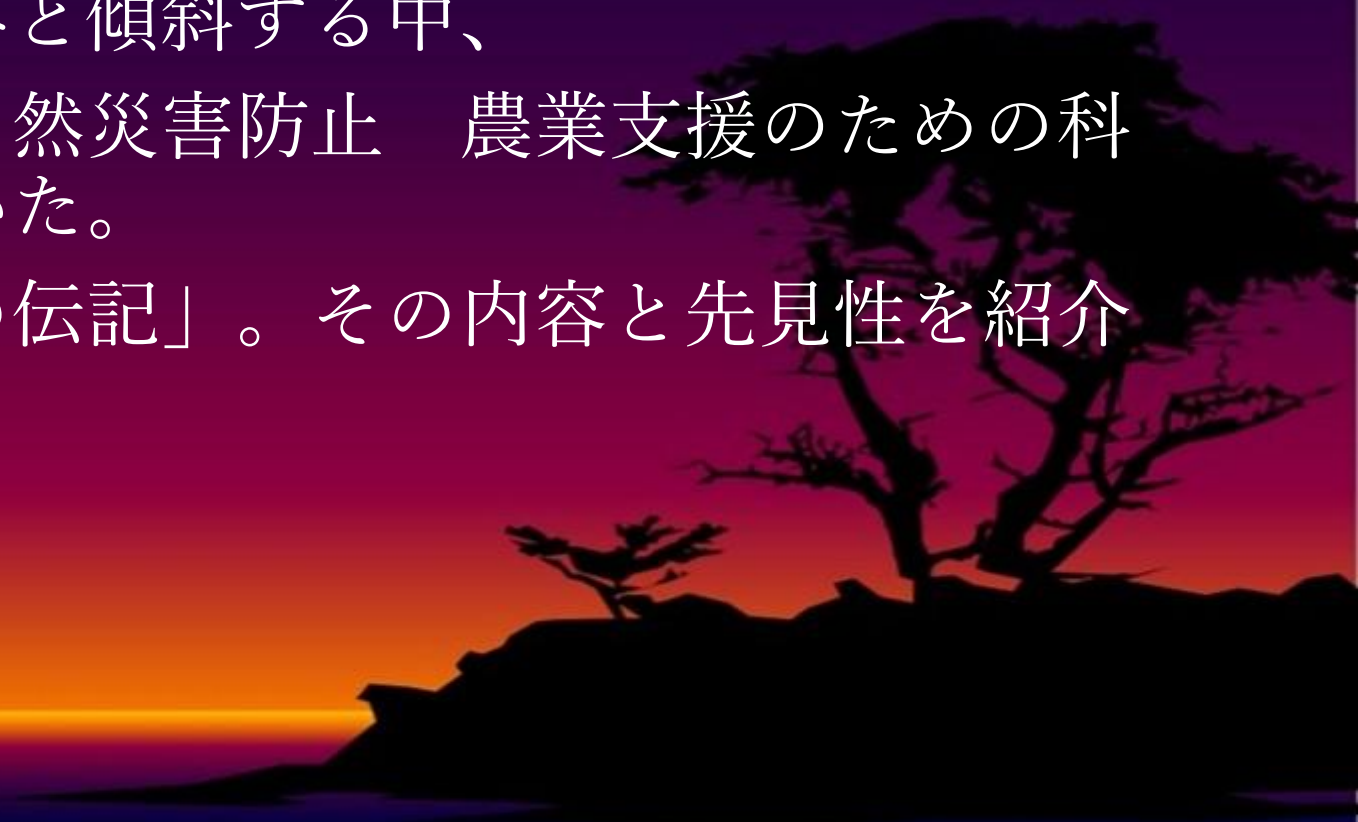
英語	中国語（簡体字・繁体字）	韓国語	フランス語	ドイツ語
ロシア語	スペイン語	イタリア語	ポルトガル語	オランダ語
スウェーデン語	フィンランド語			
- 同時代人の漱石の「吾輩は猫である」の外国語翻訳は8か国語にとどまっている。

また賢治をテーマにした国際研究大会が1996年8月に第1回が行われて毎年各国の文学研究者が研究の成果を紹介しあっているのだ。このように時代を経るにつれて有名になり、愛読者を増やしている宮沢賢治とはどういう人か、を次の3つの切り口で探っていきたい。

- ① 科学とその応用も、そして社会の将来を見通す先見性
- ② 卓越した宗教信念、
- ③ それらを支えた賢治の第6感とスーパー能力と、そこから生まれた魂の体外離脱能力

第2章 科学とその応用技術も、 そして社会の将来を見通す先見性

- 1932年（昭和7年）頃、日本は国を挙げて軍国主義への道を進み、科学技術も軍事力強化へと傾斜する中、
- 賢治はその方向に反して、自然災害防止 農業支援のための科学技術の夢物語の童話を書いた。
- その名は「グスコーブドリの伝記」。その内容と先見性を紹介したい。
- その物語の要約は次の通り。



グスコーブドリはイーハトーブの森に暮らす樵の息子。

3年続いた冷害による飢饉で一家は飢え、両親も妹も失い、一人になる。その家にあったクーボー大博士の本で勉強する。彼にあこがれて街に出て、大博士の学校に紛れ込む。大博士は個人乗りの小型飛行船を持っていてそれで通勤していた。

大博士は一瞬にしてかれの逸材ぶりを認め、彼を火山局のペンネン老技師に紹介してそこで働かせる。

火山局には最新の設備で、イーハトーブの中にある300余の火山に設置された観測装置とつながっている巨大なモニターが中心にある。その変化や前兆はすべて表示されるのだ。

彼はペンネン老技師のもとで、イーハトーブ火山局の技師となり、噴火被害の軽減や人工降雨を利用した施肥などを実現させる。

ある日 南の海岸にあるサンムトリという火山が噴火の前兆を示していた。この火山の10kmの近郊にはサンムトリ市があり、噴火すれば壊滅的な被害を受ける。そこで火山局は計画する。山の海に向いた方向にボーリングで傷口をつくり ガスと溶岩を放出させることしかないと。



早速ペンネン技師とブドリは汽車でサンムトリに行きます。クーボー大博士も飛行船に乗って視察に来て彼らを激励します。問題は動力電力の不足です。クーボー大博士は潮汐発電所の設置計画を練り上げて実行します。そしてサンムトリ火山の中腹に穴をあけ安全な方向にガス抜きをするという工作は成功するのです。

ブドリが27歳のとき、イーハトーブはまたしても深刻な冷害に見舞われる気象条件になりました。

ブドリは深く悩み ある案を思いつきます。大クーボ博士にも相談し、同意をえます。

それは地球の大気に大量の炭酸ガスを導入すれば 温室効果で冷害を防げるのではないかという案でした。

そして大火山のカルボナード火山を人工的に爆発させることにするのです。しかし、その実行に際して誰か一人は噴火から逃げる事ができなかった。犠牲を覚悟したブドリは、クーボー博士やペンネン老技師を冷静に説得し、最後の一人として火山に残った。ブドリが火山を爆発させることに成功し、冷害は食い止められた。ブドリ27歳でその身をささげたのだ。

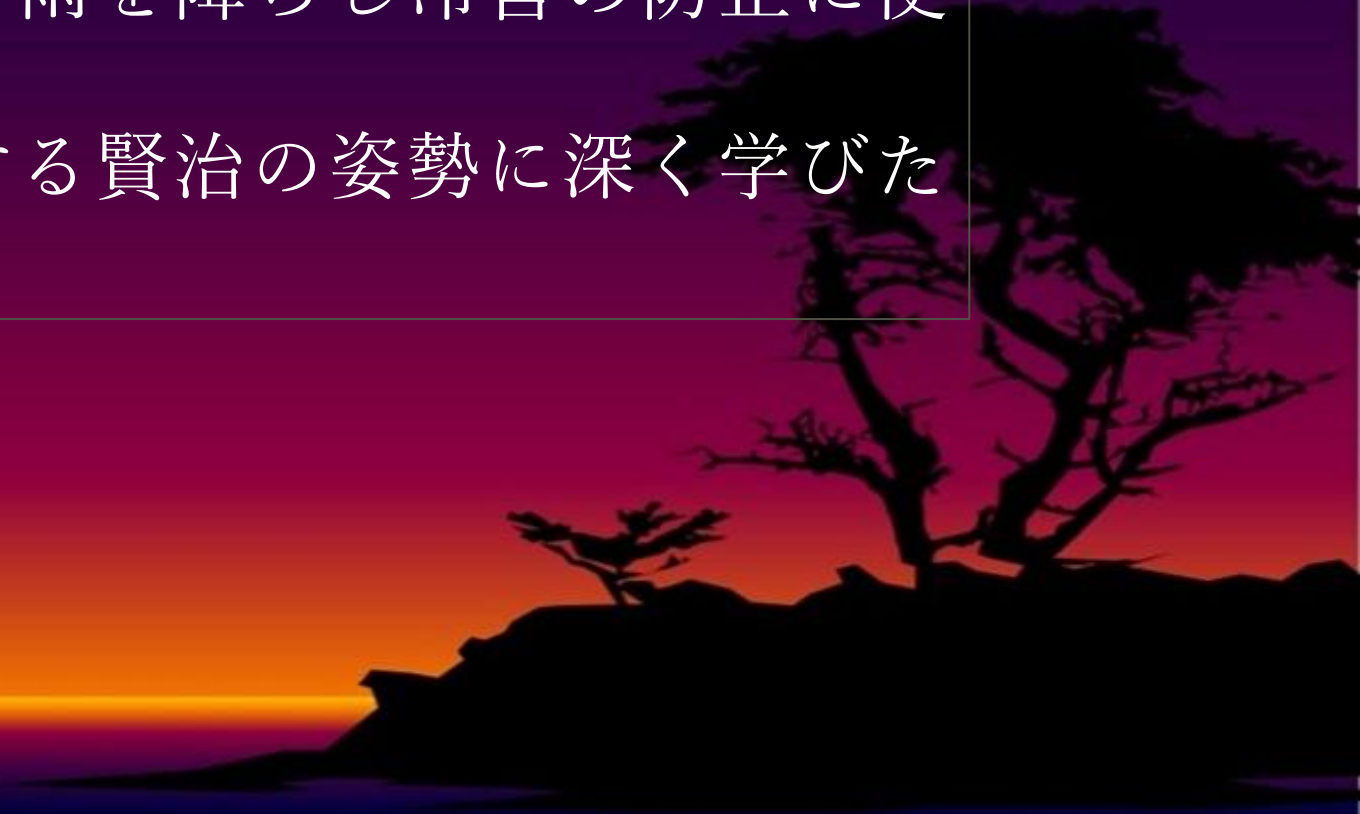
この童話は1932年（昭和7年）に発表された。
賢治が夢として語った科学的技術的な成果は、それから100年現在の
人類の力のふがいなさを思い知らされるばかりである。

気象庁の火山観測網は活躍しているが、この火山局のような能動的で
火山に働きかける活動はない。

大クーボ博士が自家用に使っている飛行自動車はいまだ実現していな
い。イーハートブの海岸を取りまく200もの潮汐発電所ができたと
ある、現在の日本は まだ実証実験を開始した程度だ。

最後の噴火で発生する炭酸ガスを大気圏に導入して地上の冷害被害を
防止するというアイデアは、今は不幸にも逆に地球温暖化公害という
形で実現している。まだその量が少なくコントロールできる段階であ
れば、意味があったであろう。

そして何よりも日本列島の生活で避けることのでき
ない火山活動を、
被害意識だけでとらえず、
それを手なづけ、肥料の雨を降らし冷害の防止に使
うなど、
逆に活用していこうとする賢治の姿勢に深く学びた
い。



第3章 卓越した宗教的信念

- 賢治は幼い時から仏教世界に親しんでいた。
- 当時の明治政府は神道による宗教統一を図ろうとしていて、先走った群衆の廃仏毀釈運動が起きていた時代だ。
- そんな中で、心ある仏教者たちは真剣に仏教の振興策を図り、岩手県にも宗派を超えた仏教の講演会などが開かれる時代であった。
- 賢治の家は浄土真宗で、この世に期待をもたず、南無阿弥陀仏と唱えることで、死後浄土へと救ってもらうことを願い求める信仰であったが、この講演会などで賢治は「妙法蓮華経」の教えを知り、父の反対を押し切ってまで、日蓮宗に強く帰依するようになった。

長大で難解な「妙法蓮華經」の内容を簡単に要約する。

ここでもお釈迦様が中心だ。しかしここでは釈迦牟尼仏はインドで悟りを開かれた歴史上の人物ではもはやない。このお経では、「三千大千世界」の広大な宇宙に「過去・現在・未来」の無限に広がる時間軸を貫いて存在しておられる超越神である。

（仏教では神とは言わないが）

この娑婆世界は永遠に継続する清らかで楽しい仏国土だ。釈迦牟尼佛はそこに住むすべての人を平等に救おうとしておられる。人が妙法蓮華經の教えを聞けば、成仏できる。「南無妙法蓮華經」と題目を唱えれば 死んで成仏した人にも会えると説いている。釈迦牟尼仏が治めるこの現世娑婆世界には あの世とこの世も分断はないのだ。

このような偉大な宇宙と仏の慈悲を人々に告げ知らせる使者の役を自ら担うものを「菩薩」と呼び仏の子となる。

賢治は法華經を学び、自分の生き方を菩薩行に見つけた。

賢治の人生の特徴というか太い柱は この菩薩行にあるといえる、病を抱えながら始めた羅須地人協会や、死後発見されて今や代表作になっている「雨にも負けず」の詩はそれを表している。



雨ニモマケズ

雨ニモマケズ
 風ニモマケズ
 雪ニモ夏ノ暑サニモ負ケヌ
 丈夫ナカラダヲモチ
 慾ハナク
 決シテ鯨ハラス
 イツモミズカニワラツテ耳に
 一日ニ玄米四合ト
 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
 アラユルコトヲ
 ジブンヲカンジョウニ入レズニ
 ヨクミキキシワカリ
 リシテワスレス
 野原ノ松ノ林ノカゲノ
 小サナ萱フキノ小屋ニ耳テ
 東ニ病氣ノコドモアレバ
 行ッテ看病シテヤリ
 西ニツカレタ母アレバ
 行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
 南ニ死ニサウナ人アレバ
 行ッテコハガラナクテモイイトヒ
 北ニケンクワヤソシヨウガアビ
 ツマナナイカラヤメトイヒ
 ヒドリノトキハナミダヲナガシ
 サムサノナツバオロオロアルキ
 ミンナニデクノボートヨバレ
 ホメラシモセズ
 クニモサレズ
 サウイフモノニ
 ワタシハナリタイ



雨ニモマケズ
 風ニモマケズ

その時代、宗教団体としての日蓮宗でなく、在家のままで法華經を普及推進する団体があった。「国柱会」という。賢治は上京してそれに参加し、一生、得意とする創作活動や、農業指導の世界で 法華經の精神を実践布教していきことに決心する。現代も国柱会は存続しているが、今はさらに強力な団体が現れています。

この法華經信仰と日蓮の教えを日本だけでなく世界に宣教して驚くべき成果を上げているのが創価学会だ。

仏教思想を実践する集団を世界各国に生み出し世界192カ国・地域に会員を有し、海外約300万人（2023年11月現在）の会員がいる。そのエネルギーはやはり法華經の中から生まれているのだ。

第4章 それらを支えた賢治の第六感とスーパー能力

- この章で取り上げる賢治の特徴は、誰にでも見受けられる特性ではなく、彼の生来的で、独自のもので、賢治の文学が持つ特別の色彩を生み出した原因となった神秘的というよりほかない独自の特性である。
- 宮沢賢治の研究家の一人でおられる日大芸術学部の山下聖美教授のNHKの「100分で名著」『集中講義宮沢賢治』に依拠しつつ紹介する。
- 賢治は鋭い五感を持っていたが、その上にそれを越えた第六感を持っていたという。

山下教授は賢治に近い人たちからの証言をもとに、彼の嗅覚、味覚、聴覚 視覚、触覚の五感のどれも独特の鋭さを持っていることに周りも驚く場面があり、それを彼の作品表現の豊かさに結び付いたと語っておられる。

その鋭い感受性は「共感覚」へとひろがったのです。賢治の知人である医師の佐藤孝房さんはこのようにのべています。

「賢治さんは優れた官能の鋭敏さと、まれに見る官能間の融通性を持っていました。目で見えたものは耳から聞いたように、耳から聴いたことは目で見たとように、自由に感じ得るひとでした。」
この共感覚が働く場面の描写は作品のあちこちに発見できます。

更にその上に賢治はこれらを越えた第六感すなわち靈感のようなものを持っていました。

その例として、亡くなった妹トシが枕もとにあらわれたとか、山に登り寝ていたら二人の僧侶の亡霊があらわれたとか、自分の乗っているトラックを谷に突き落とすとする「小人」を見たなどの様々なエピソードをあげています。

以上が 山下教授が指摘された感覚の人並でない鋭さです。

私は その人並でない感覚の上に、彼は それらに支えられた
スーパ能力 魂の「体外離脱」を、賢治は体験していたのではないかと推定しています。

それを語るために、まず一般論としての「体外離脱」とは何かを紹介しなければなりません。それをご理解いただいた上で、賢治の実例に話を戻します。

まず彼はその言葉を知りません。なぜならその用語が一般に知られるようになるのは、アメリカの研究書の発行が1943年で、ずっと後世のことだからです。

まず人間の死とは何かからはじめなければなりません。無神論者の多い日本人の多くの方は信じないのですが、人間はその死を迎えた時に、それまで内に収まっていた精神体「魂」が、肉体の束縛を離れて天に向かって飛びだします。宇宙に向かって飛翔していきます。精神体「魂」は肉体とは同じ物質ではできていないのです。

ここにまれなケースですが、死が宣告されて、しばらくして、肉体がよみがえる人たちがいます。その時は、いったん離脱した精神体「魂」は急いで、肉体に戻るといふ現象が起きます。その離脱中に体験した不思議な体験を「臨死体験」といいます。その例を克明に調べた研究が 日本では立花隆の「臨死体験」といふ本にまとめられました。ベストセラーとなりました。

さらにアメリカでそれをさらに広範囲で高度な調査をした先行研究があり、立花隆はこのアメリカの研究者ロバートモンローをインタビューし、その研究のあらましを紹介しています。キリスト教徒が主であるアメリカでは 人は死とともに新たな命が神から与えられると信じる人が一般的です。従って人の死に際して その人の精神体が肉体を離脱していくのは その現れで当然と受けとめるのです。

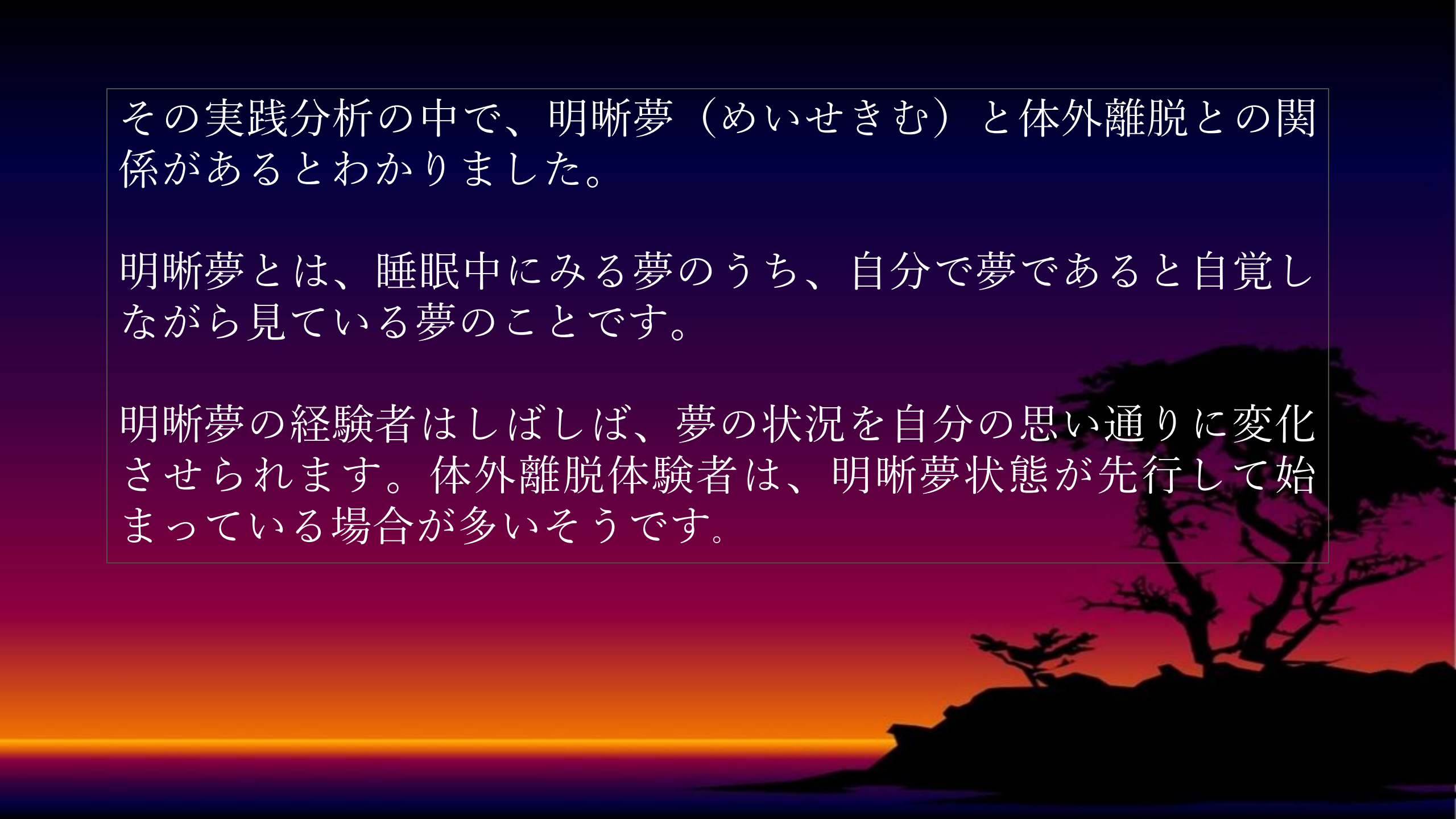
その中で驚くべき展開がありました。あのロバートモンローが中心となって研究所を設立し、この死に際しての精神体の肉体からの分離離脱という実態を広く調査しただけでなく、さらに死を待たず人の健康な間に、その精神体の肉体からの離脱の原理を探查し、ひろく体験しようとする試みがおこなわれるようになりました。

この実行には準備がいり、それにふさわしい素質もあり、講習会が開かれて、多くの人に参加しました。この事実を体験することは、人間の死後を含め、その存在そのものの理解に決定的な影響を与えるからです。生前の体外離脱に一度でも経験をすると、人生が変わる思いがし、楽観的になり、喜びに満ち、何事にも積極的になる。最近の統計ではアメリカ人の25%がそれを体験しているのだそうです。

その実践分析の中で、明晰夢（めいせきむ）と体外離脱との関係があるとわかりました。

明晰夢とは、睡眠中にみる夢のうち、自分で夢であると自覚しながら見ている夢のことです。

明晰夢の経験者はしばしば、夢の状況を自分の思い通りに変化させられます。体外離脱体験者は、明晰夢状態が先行して始まっている場合が多いそうです。



以上が一般論として現在わかっている生前の精神体の「体外離脱」ですが、
宮沢賢治は明晰夢とともにそれを体験している可能性が高いのです。彼はこれを他人からおしえられたものではなく、彼の並外れて鋭い感性などの心的条件が、意図した準備をすることなく、ある時ごく自然に体験できたのではないかとおもわれます。一度体験すると繰り返し体験は容易になります。

私が、賢治は体外離脱の経験を書いているのではないかと勝手に思い始めたのは 何度も『銀河鉄道の夜』を読み直している時ですが、改めてAIを使って有識者の見解を聞いてみると賢治の童話「インドラの網」という作品がまさに体外離脱経験を語っているとの指摘を見つけました。

その「インドラの網」という夢幻的童話を抜粋で紹介します。

そのとき私は大へんひどく疲れていて たしか風と草穂との底に倒れていたのだとおもいます。 その秋風の昏倒の中で 私は私の錫いろの影法師にずいぶん馬鹿ていねいな別れの挨拶をやっていました。

そしてただひとり暗いこけももの敷物を踏んでツェラ高原を歩いて行きました。

稀薄な空気がみんな鳴っていましたがそれは多分は白磁器の雲の向うをさびしく渡った日輪がもう高原の西を劃る黒い尖々の山稜の向うに落ちて薄明が来たためにそんなに軋んでいたのだろうとおもいます。

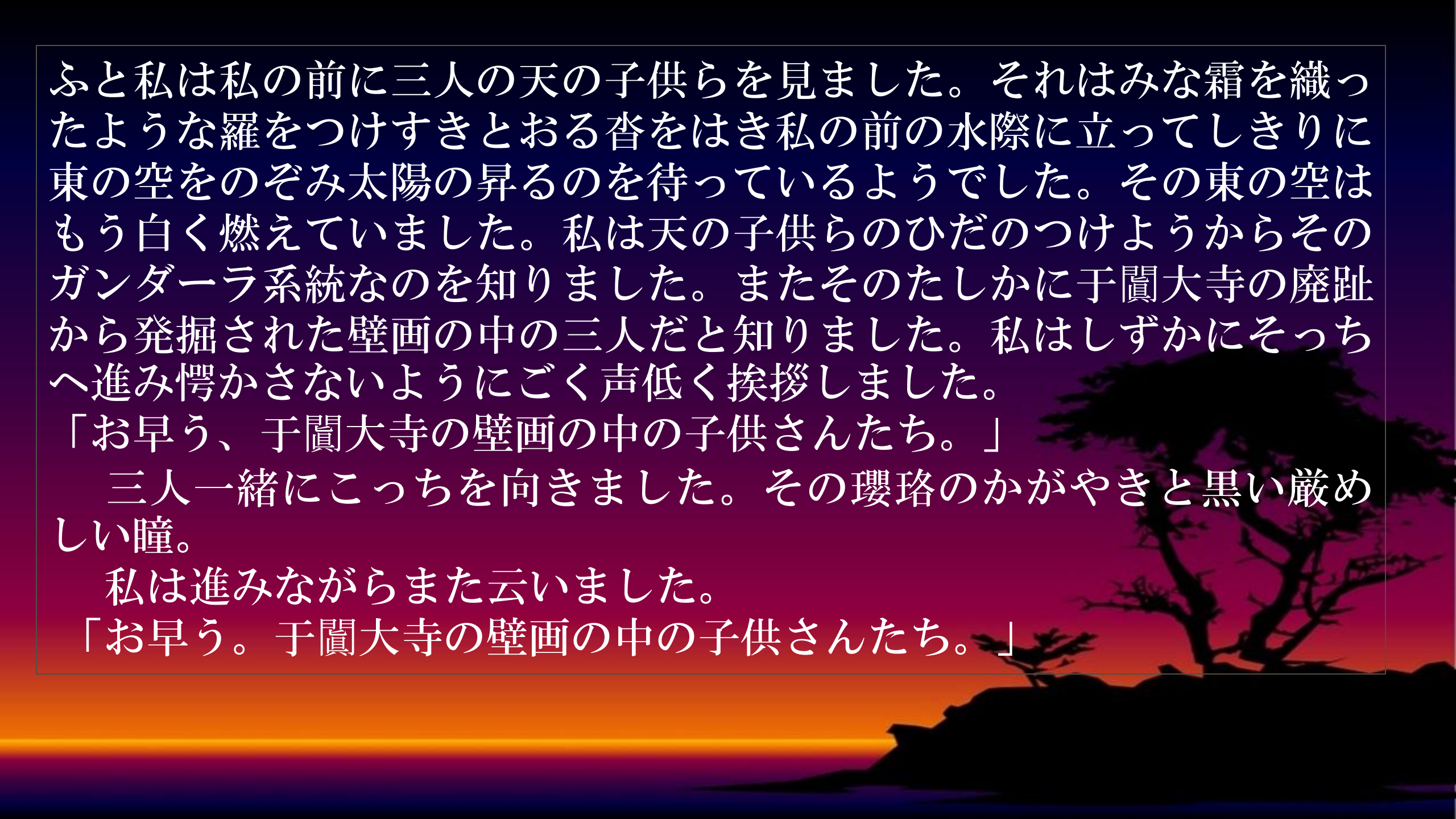
そのとき私ははるかの向うにまっ白な湖を見たのです。

いつの間にかすっかり夜になって空は　まるですきとおっていました。
素敵に灼きをかけられてよく研かれた鋼鉄製の天の野原に銀河の水は
音なく流れ、鋼玉の小砂利も光り岸の砂も一つぶずつ数えられたのです。

私はまた足もとの砂を見ましたらその砂粒の中にも黄いろや青や小さな火がちらちらまたたいているのでした。恐らくはそのツェラ高原の過冷却湖畔も天の銀河の一部と思われました。

けれどもこの時は早くも高原の夜は明けるらしかったのです。
その冷たい桔梗色の底光りする空間を一人の天人が翔けているのを私は見ました。

（とうとうまぎれ込んだ、人の世界のツェラ高原の空間から天の空間へふっとまぎれこんだのだ。）私は胸を躍らせながら斯う思いました。



ふと私は私の前に三人の天の子供らを見ました。それはみな霜を織ったような羅をつけすきとおる沓をはき私の前の水際に立ってしきりに東の空をのぞみ太陽の昇るのを待っているようでした。その東の空はもう白く燃えていました。私は天の子供らのひだのつけようからそのガンダーラ系統なのを知りました。またそのたしかに于闐大寺の廃趾から発掘された壁画の中の三人だと知りました。私はしずかにそっちへ進み愕かさないようにごく声低く挨拶しました。

「お早う、于闐大寺の壁画の中の子供さんたち。」

三人一緒にこっちを向きました。その瓔珞のかがやきと黒い厳めしい瞳。

私は進みながらまた云いました。

「お早う。于闐大寺の壁画の中の子供さんたち。」

「何しに来たんだい。」少しの顔色もうごかさずじっと私の瞳を見ながらその子はまたこう云いました。

「あなたたちと一緒にお日さまをおがみたいと思ってです。」

「そうですか。もうじきです。」三人は向うを向きました。瓔珞は黄や橙や緑の針のようなみじかい光を射、羅は虹のようにひるがえりました。天の子供らは夢中になってはねあがりまっ青な寂静印の湖の岸砒砂の上をかけまわりました。そしていきなり私にぶっつきかりびっくりして飛びのきながら一人が空を指して叫びました。

「ごらん、そら、インドラの網を。」



私は空を見ました。いまはすっかり青ぞらに変わったその天頂から四方の青白い天末までいちめんはられたインドラのスペクトル製の網、その繊維は蜘蛛のより細く、その組織は菌糸より緻密に、透明清澄で黄金でまた青く幾億互に交錯し光って顫えて燃えました。



そして私はほんとうにもうその三人の天の子供らを見ませんでした。却って私は草穂と風の中に白く倒れている私のかたちをぼんやり思い出しました。

始めと終わりに眠り込んだ自分とその再発見が書かれています。
明晰夢から始まり、精神魂の対外離脱を体験しているというほ
かない描写です。

天人や壁画の子供たちとの出会い、そして朝の太陽の出の描写、
今宇宙飛行士が400k上空から地球に訪れる朝日の様子とは
ちょっと違い、大気圏のわずか上空から観察しているように、
日の出を大気圏の彩の美しさをインドラの網と表現しています。

まさしく体外離脱の経験を書けばこのようなことになるのでは
ないでしょうか。銀河鉄道の夜もこのインドラの網も賢治28
歳1924年にかかれています。

「銀河鉄道の夜」も、彼の明晰夢から始まっています。

たとえば ジョバンニとカンパネルラが、白鳥駅で下車して 銀河の河原「ブリオシン海岸」の地層発掘作業を見る場面や、突然アメリカコロラド高原に場面は変わり、インディアンが馬で疾走し、新世界交響曲が聞こえてくるなど、彼がかって体験した懐かしい場面の再現を夢に中で再現しています。

彼はこの明晰夢の中で精神体 魂の対外離脱を果たしていきます。
「銀河鉄道の夜」の中心です。

体外離脱して初めて見える世界の特徴が二つあります。

それは物事の移動のはやさの描写です。銀河鉄道の列車は石炭をたいていません。彼は「アルコールか電気だろう」とつぶやきます。実はこの異次元の世界は、行きたいとの意思をもてば、そのところへ行けるという夢の動力なのです。

鳥捕りを仕事にする男と一緒にになり、鳥の菓子をいただきますが、その鳥捕りが列車から降りて銀河の岸辺で鳥を取っているのをみます。次の瞬間彼が岸から一瞬に隣の席に移動して来ているのです。驚くジョバンニに鳥捕りは「この世界は意志すればそこに瞬間移動するのだ」と説明します。

意志すればそこに瞬間移動するのです。それはアメリカの研究でも多くの事例が報告されています。瞬間移動という現象から連想するのは21世紀の科学 量子テレポーテーションですね。

魂の体外離脱があって体験したこととみなされる第2の証拠は、そこで彼が出会った人たちがすべて直前に亡くなった死者たちであったことです。

友人のカンパネルラ、そこに乗ってくる幼い兄弟を連れた学生らは当時起きた豪華客船タイタニック号沈没の死者たちです。カンパネルラはその直前に事故でおぼれそうになった友を助けようとして、逆に彼がおぼれて水死していたのです、ジョバンニはまさかそんなこととは知らずにいて、どこまでも一緒に行こうと言い合って遊んでいたら 不意に姿を消してしまうのです。

ジョバンニは誰にも聞こえないように窓の外へからだを乗り出して力いっぱいはげしく胸をうって叫びもう喉いっぱい泣き出しました。もうそこらがいっぺんにまっくらになったように思いました。

ジョバンニは目を開きました。元の丘の草の中につかれてねむっていたのでした。」

名作童話『銀河鉄道の夜』の終わりの目覚めで終わります。

丘を降りて人々が騒いでいるのを見てジョバンニの死を知るのです。特別な時間と体験でした。宇宙の名作が生まれた一瞬でした。

第5章 この3次元空間を飛び出した宇宙人賢治

賢治は本質的にダイナミックな宇宙観を持っていました。普通に暮らす世界は縦横高さの3次元の自由度しかありません。それは3次元の世界です。次元でいえば4次元は時間軸ですが、この時間というものは、すべての人に共通でかつ一方的に進むだけで 我々の自由にはできないものです。

しかし賢治が生きていた時代に、アインシュタインが相対性理論の発表がありました。1916年のことです。賢治はいち早くその驚愕の理論を知りました。そのうえでこの世界は4次元の時間軸は、絶対的に固定ではなく 相対的なものであると理解したのです。

『春と修羅』の「序」にはこのような言葉があります。

『すべてのこれらの命題は
心象や時間それ自身の性質として
第四次延長のなかで主張されます』

『農民芸術概論』には次の言葉があります。

『・・おお朋だちよ、いっしょに正しい力を併せ われらすべての田園とわれらのすべての生活を一つの巨きな第四次元の芸術に創りあげようではないか・・・』

彼なりに解釈した時間軸は、「自由にしうる」と考えたのです。
ここにあげた言葉「第4次云々」は努力目標を入れた時間軸の意味に使っています。しかし時間軸に関していえば、そこから飛び出すことは無理で、それ努力目標を宣言する以上のことはありませんでした。

しかし賢治は、その後 先の第4章で紹介した体外離脱の実践によって、この3次元空間を飛び出したのです。しかしそれをうまく表現できなかったのは仕方ありません。

それを物理的な意味をもつ言葉で表現できるためには、物理学の進歩をあと80年待たなければならなかったのです。

21世紀の物理学は量子力学を経て、すべての量子は単一の「ひも理論」で説明できるというところまで来ました。そしてそこから得られた結論は、リサ・ランドール博士に従えば、この世界は5次元でできているというものでした。人間が暮らしている3次元の世界に、自由にならない4次元の時間軸のほかに、重力が自由になる第5次元が接続しているというものです。

まさに賢治は体外離脱によって、この重力が自由になる5次元の世界を体験したのです。一瞬の意志による移動ができるこの驚くべき異次元の世界、それを表現するのに適切な5次元という言葉を知らなかった。だからこう書きました。

『ジョバンニは銀河ステーションで銀河鉄道に乗り込んだとき、切符をもらった記憶はなかった。ところが、上着のポケットを探してみると、たたまれた紙切れが見つかった。四つ折りで緑色したハガキぐらいの大きさの紙だ。』

とりあえず、それを車掌に見せると、こう言われた。
「これは三次空間の方からお持ちになったのですか。」

隣にいた鳥捕りがその切符を見て、驚いたように話し出した。

「おや、こいつは大したもんですぜ。こいつはもう、ほんたうの天上へさへ行ける切符だ。天上どこぢゃない、どこでも勝手に歩ける通行券です。こいつをお持ちになれば、なるほど、これほど不完全な幻想第四次の銀河鉄道なんか、どこまででも行ける筈でさあ、あなた方大したもんですね。」

超ひも理論が1世紀早かったら賢治も5次元の宇宙への飛躍と胸を張って言えたのですが、「三次空間の方からお持ちになった」と消極的で間接的な表現しかできなかったのです。

ここに100年たって真の姿を現した天才 「5次元の世界」に飛び出した宇宙人宮沢賢治の姿をみることができます。

我々も賢治に学べば その心は宇宙人です。 以上